

第1学年2組 生活科学習指導案

授業日 平成27年7月1日(水) 5校時
 授業者 附属新潟小学校 教諭 三星雄大
 会場 1年2組教室

1 単元名 がっこうたんけんたい -すてきな〇〇さん-

2 本単元の価値

本単元は、以下の学習指導要領に準じて設定する。

内容(1)

学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心を持ち、安全な登下校ができるようにする。

本単元では、学校で働く人に対する気付きの質を高め、あこがれをもつ子どもを目指す。例えば、「大野さん、いつも草取りをしてくれてありがとうございます。ぼくは、大野さんが草取りをしてくれているから毎日楽しく遊ぶことができます。また一緒にお仕事したいです」などと手紙に記述する姿である。

本単元では、学校で働く人に焦点を当てる。子どもにとって学校で働く人は、担任以外何をどのようにしているのか気付かないまま生活している。そこで、内容(1)の学習で意図的に気付かせていく必要がある。なぜなら、子どもが楽しく安心して遊びや生活ができるのは、学校で働く多くの人の存在があるからだ。例えば、保健室の長谷川先生が、子どもの健康と安全のために働いている。事務補佐員の大野さんが、子どもと来校された方のために校地校舎の整備をしてくれている。警備の望月さんが、子どもの安全のために校地の警備をしてくれている。これらの人たちと直接かかわることを通して、子どもは、実感を伴ってその人の「すごさ」に気付いていく。「すごさ」とは、やってみると大変だと分かる仕事や学校で働く人の工夫や努力である。「すごさ」に気付いた子どもは、学校で働く人に心が惹かれていく。そして、学校で働く人にあこがれをもつ。ここでいうあこがれとは、以下の2点である。

① 学校で働く人の「すごさ」に気付き、自分にできることをしようとする姿。

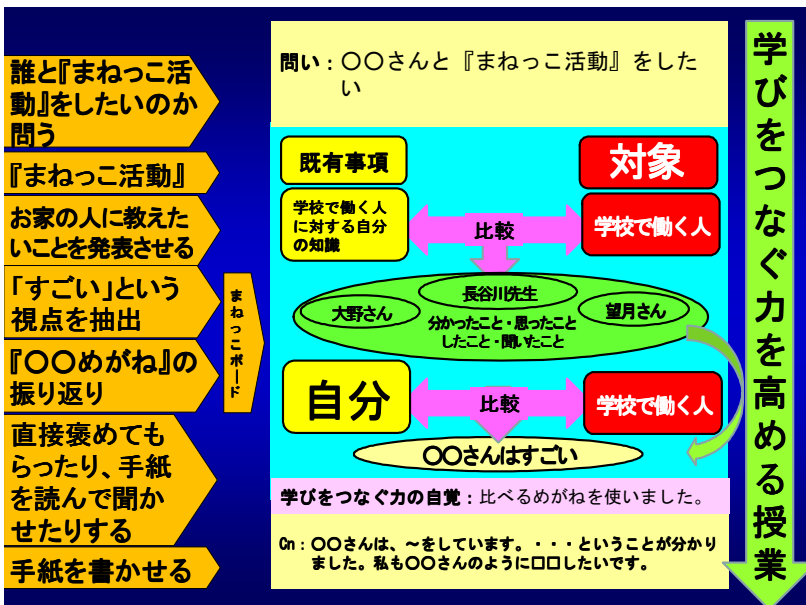
例：長谷川先生優しくしてくれてありがとうございます。私がけがをしたときも優しくしてくれて嬉しかったです。友達にも優しくします。

例：望月さん、朝優しく挨拶してくれて嬉しいです。毎日やっていますすごいですね。今度はぼくから挨拶します。学校を守ってくれてありがとうございます。

② 学校で働く人に好意をもち、これからもかかわりたいという思いや願いをもつ姿。

例：大野さん、いつも草取りをしてくれてありがとうございます。ぼくは、大野さんが草取りをしてくれているから毎日楽しく遊ぶことができます。また一緒にお仕事したいです。

このように、学校で働く人とかかわることを通して、気付きの質を高めていくことのできる単元である。



3 本単元で目指す姿と「中核的な学習内容」「学びをつなぐ力」

(1) 目指す姿

学校で働く人に対する気付きの質を高め、あこがれをもつ子ども「大野さん、いつも草取りをしてくれてありがとうございます。ぼくは、大野さんが草取りをしてくれているから毎日楽しく遊ぶことができます。また一緒にお仕事したいです」などと手紙に記述する姿

(2) 「中核的な学習内容」

学校で働く人に対する気付きの質の高まり(学校で働く人のすごさに気付くこと)

(3) 「学びをつなぐ力」

比較するすべを用いて、学校で働く人と自分とを比べて学校で働く人をすごいという視点でとらえる力

4 指導計画 全20時間 (60Q)

単元カード参照

5 指導の構想

※1次と2次で学校の施設を主に取り上げた学習活動は、省略する。何をどのように学んできたのかは、単元カードに記載する。

3次で3回の「まねっこ活動」を行った。「まねっこ活動」とは、身近な人と一緒に仕事をしたり、作業をしたりすることである。保健室の長谷川先生とは、水質検査や健康記録書きなどを一緒に経験させた。事務補佐員の大野さんとは、前庭やグラウンドの草取りを一緒に経験させた。警備の望月さんとは、朝校門に立って上級生や中学生に挨拶をする活動を経験させた。体験後は、個人で振り返りを行い、気付いたことを交流させた。

体験と振り返りを繰り返す中で、「長谷川先生と一緒に怪我の手当てのまねっこをして楽しかった」などと、学校で働く人のすごさには気付いていない子どもに次のように働き掛ける。

働き掛け1

再度『まねっこ活動』の場を設定し、誰と『まねっこ活動』をしたいかを問う。

問い(思いや願い)をもたせるための働き掛けである。まず、「もう一度、『まねっこ活動』をします。どの人と『まねっこ活動』をしたいですか」と、問う。すると子どもは、「今までは長谷川先生だったけど、大野さんのことを知りたいな」などと、新たな人とかかわりたいという思いや願いをもったり、「まだ、望月さんと一緒にお仕事をしたい」などと、同じ人にかかわりたいという思いや願いをもったりする。これが問い(思いや願い)をもった姿である。

働き掛け2

自分が決めた学校で働く人(「対象」と『まねっこ活動』に取り組ませる。

学校で働く人を詳細にとらえさせ、学校で働く人と自分とを比較しやすくさせるための働き掛けである。学校で働く人(「対象」以下:学校で働く人)が日常的に行う仕事を一緒に体験させる(以下:『まねっこ活動』)。すると子どもは、今まで無自覚であった学校で働く人の仕事内容や表情や人柄などに気付く。また、比較するすべを用いて、学校で働く人と自分がしていることを比べ、見ているだけでは気付かない「すごさ」を実感する。

その後、個人の振り返りとしてお家の人に教えようと投げ掛け、「分かったこと・思ったこと・したこと・聞いたこと」という視点を与え、気付いたことを発表させる(『まねっこボード』を使用)。記述させる前に発表させることで無自覚であった気付きを自覚させることができる。また、友達の気付きを聞くことで、自分の体験を想起することができる。その後、「〇〇さんのアルバム」にして個人で振り返らせる。なお、働き掛け2は複数回設定する。

働き掛け3

『まねっこ活動』で気付いたことを発表させ、「すごいこと」を発表した子どもの発言を取り上げて、同じように〇〇さんのことをすごいと思った人いますかなどと投げ掛ける。

「すごいこと」という視点で学校で働く人をとらえさせるための働き掛けである。子どもは、『まねっこ活動』を通して、学校で働く人の「すごさ」を実感している。

しかし、多くの子どもは無自覚である。そこで、まず『まねっこ活動』のことで新しくお家の人に伝えたいことがある人はいますかと投げ掛ける。子どもは、分かったこと・思ったこと・したこと・聞いたことの中から選んで発表する。

発表させる中で、「～してすごかった」などの発言が出てきたとき、「すごいと思ったと発表してくれたけど、同じように〇〇さんのことをすごいと思った人いますか」と、投げ掛ける。すると子どもは、比較するすべを用いて、学校で働く人

まねっこボード

※働き掛け2を受けて、『まねっこボード』の左側に分かったこと・思ったこと・したこと・聞いたことを書く。なるべく文章量を減らして書く。その際、イラスト等も活用する。

※働き掛け3を受けて、『まねっこボード』の右側に子どもの発言を書き、『すごいねシール』を貼っていく。

と自分とを比べて学校で働く人をすごいという視点でとらえる。「すごい」と発言した内容については、『まねっこボード』右側に書き、「すごいねシール」(ニコニコマーク)を貼る。

働き掛け4

学校で働く人から直接褒めてもらったり、手紙を読んで聞かせたりする。

「自分にできることをしたい」「学校で働く人とこれからもかかわりたい」などという思いや願いをもたせるための働き掛けである。学校で働く人を「すごい」ととらえるだけではあこがれをもつまでには至らない。そこで、学校で働く人から直接褒めてもらったり手紙を読んで聞かせたりする。『まねっこ活動』の中で子どものすばらしさを褒めている内容のものである。また、どのような思いで仕事をしているのかも含まれている。読み聞かせた後に、「手紙に書いてあることを聞いてどのように思いましたか」と問う。子どもは、自分がしたことを褒めてくれたことで自信をもち学校で働く人に対して好意を抱く。

その後、自分がかかわった学校で働く人への手紙を書かせる。子どもは、『まねっこ活動』を通して気付いた学校で働く人の「すごさ」や学校で働く人からの手紙の言葉などから、「自分にできることをしたい」「これからもかかわりたい」という思いや願いをもつ。

「学びをつなぐ力」を自覚させるための働き掛け

授業後に、『〇〇めがね』の振り返りの場を設定する。

授業後に、『〇〇めがね』の振り返りの場を設定する。ここでは、①「どのようなめがねを用いて(視点)」気付いたのかを問い返す。視点は、比べる・分けるなどの考え方である。子どもは、友達の発言を聞いて「比べるめがねを使っている」などと、気付く。このように授業の発言を取り上げて繰り返すことで子どもは、生活科で大切にされている比較・分類などの見方や考え方を自覚し、以降の学習においても身に付けた見方や考え方を活用していく。

6 本時の構想 (本時20/20時間)

(1) ねらい

比較するすべを用いて、学校で働く人と自分とを比べて学校で働く人をすごいという視点でとらえることで学校で働く人に対する気付きの質を高め、あこがれをもつことができる。

(2) 主張(展開) 3Q (45分)

このような子どもに (C0)

- ・ 長谷川先生と一緒に、怪我の手当てのまねっこをして楽しかった。
- ・ 大野さんと草取りをした。
- ・ 望月さんと学校の周りを見回った

※学校で働く人のすごさには気付いていない子どもに次のように働き掛ける。

このように働き掛けると【働き掛け1】

- 再度『まねっこ活動』の場を設定することを告げ、どの人のことを知りたいかを問う。
 - ・ 説明「今まで学校探検隊として、『まねっこ活動』を三回してきました。授業の中で、まだやりたいな。終わるのが悲しいなどと言っている人がいました。同じ気持ちの人もたくさんいるようです。そこで、三人の人にお願ひして『まねっこ活動』をもう一度したいと思います」
 - ・ 発問「どの人と『まねっこ活動』をしたいですか。理由も書きましょう」

このようになり (C1)

- 新たな人とかかわりたいという思いや願いをもったり、同じ人とかかわりたいという思いや願いをもったりする。
 - ・ 今までは長谷川先生だったけど、今度は大野さんと『まねっこ活動』をしたいです。 どうしてかというと、大野さんが草をどこからどこまで刈っているのか知りたいからです。
 - ・ 望月さんのまがねがいいです。 望月さんともっとお話して仲良くなりたいからです。
- ※おまかせのように、誰と『まねっこ活動』をしたいのかを記述している子どもを通過と判断する。

このように働き掛けると【働き掛け2】

- 学校で働く人と『まねっこ活動』に取り組ませる。
 - ・ 説明「今日から自分が調べたいと決めた学校で働く人のところに行って『まねっこ活動』をしてきます。『まねっこ活動』は、長谷川先生や大野さんや望月さんと一緒に仕事をしていくことを言います。今の時間だと、長谷川先生は保健室にいます。大野さんは、前庭にいます。望月さんは、校門のところにあります。それぞれの場所に行って、一緒に仕事をしてきましょう。どのような仕事をするのかは、行ってからのお

楽しみです。お仕事するとき、お話をしているですよ。気を付けることは3つです。
①勝手な行動はしないこと②お仕事の邪魔になることはしないこと③時間になったらお礼を言って帰ってくることです

- 気づきを交流させ、個人で「〇〇のアルバム」に振り返らせる。
- ・説明「皆さん、『まねっこ活動』をしてみてどうでしたか。この勉強では、お家の人に学校で働く人のことを伝えます。お家の方は今日、学校でどうだったと聞くでしょ。皆さんの学校の様子が知りたいですよ」
- ・発問「『まねっこ活動』をして、お家の人に教えたいことはなんですか。分かったこと・思ったこと・したこと・聞いたことを発表してください」
- ・指示「皆さんが、生活科でこんな勉強をしているよと教えてあげるために『〇〇さんのアルバム』に書きましょう。丸い紙を配りますから、一枚の紙に一つのことを書いてください」

※学校で働く人には、あらかじめ趣旨を伝えておく。なお、この活動は3回行う。長谷川先生は、授業時間と休み時間の『まねっこ活動』を合わせて1回とする。休み時間は、怪我をした人の手当てである。望月さんは、授業時間と校門に立って挨拶の『まねっこ活動』を合わせて1回とする。

このようになり (C2)

- 学校で働く人と、一緒に仕事をしたり作業をしたりしてかわり、『〇〇さんのアルバム』に『まねっこ活動』をしてお家の人に伝えたいことを書く。

〈長谷川先生〉

・怪我をした人の手当て ・シャボネットやトイレトペーパーの補充 ・検診の準備や片付け

〈大野さん〉

・前庭などの草取り ・附属ロードの整備 ・校地内の木の剪定

〈望月さん〉

・校地内の見回り ・施設の施錠の状況確認 ・校門の前に立って挨拶

発言と『〇〇さんのアルバム』

〈分かったこと〉

・長谷川先生がトイレトペーパーの交換をしてくれていました。

・望月さんは、学校の中に不審者が入っていないか毎日見回っています。僕も一緒に見回りました。

〈思ったこと〉

・長谷川先生は、優しいと思いました。

・大野さんは、暑いのに頑張っているなと思いました。

・望月さんは、お仕事をしているとき、笑顔でお話ししてくれました。

〈したこと〉

・長谷川先生と、歯科検診の準備をしました。

・望月さんと朝、校門に立って挨拶しました。

〈聞いたこと〉

・望月さんは、子どもが好きだから警備員さんになったと言っていました。

※C2では、 のように、『まねっこ活動』をして分かったこと・思ったこと・したこと・聞いたことなどを発表や『〇〇さんのアルバム』の記述から判断する。いずれかの発言や記述があれば通過と判断する。

~~~~~ ここから本時 ~~~~~

※本時は、『まねっこ活動』3回目終了した段階から始める。よって、本時における既有事項は、働き掛け2の3サイクル目までの活動及び『〇〇さんのアルバム』の記述とする。

### このようになると【働き掛け3-①】

- 『まねっこ活動』を通してお家の人に教えたいことを発表させる。

・発問「皆さん、『まねっこ活動』で新しくお家の人に教えたいことは何ですか」

・補助発問「皆さんの中にも〇〇さんと同じように考えている人はいますか」

・補助発問「長谷川先生は～でしたが、望月さんも同じですか」

・補助発問「どこからそのように思ったのですか」

※働き掛け3では、3人を同時に扱う。そのため、教師が意図的に問い返したり、長谷川先生から望月さんへ話を転換したりする。

### このようになり (C3-①)

- 学校で働く人について分かったこと・思ったこと・したこと・聞いたことを発表する。

・長谷川先生は、毎日たくさんの人の怪我の手当てをしてくれています。



- ・大野さんと一緒に前庭の草取りをしました。ビニール袋4つ分も取れました。
  - ・望月さんは、学校の中に不審者が入っていないか毎日見回っています。僕も一緒に見回りました。
  - ・長谷川先生は、笑顔で僕たちに話しかけてくれました。
  - ・大野さんは、草取りをしているとき優しく教えてくれました。嬉しかったです。
  - ・望月さんは、お仕事をしているとき、笑顔でお話ししてくれました。
- ※仕事内容・表情・人柄のいずれかを発表している子どもを通過とする。
- ・大野さんは、一人で前庭の草取りをしていてすごいと思った。
- ※\_\_\_\_\_のように、「すごい」という視点で発表した子どもがいたら次のように働き掛ける。出てこなければ、『〇〇さんのアルバム』の記述を見取っておき、意図的に指名して発表させる。

#### このように働き掛けると【働き掛け3-②】

- 「すごいこと」を発表した子どもの発言を取り上げて、同じように〇〇さんのことをすごいと思った人いますかなどと投げ掛ける。
    - ・説明「今、〇〇さんは大野さんのことを「すごい」と発表してくれました」
    - ・発問「皆さんの中にも同じように大野さんをすごいと思った人はいますか」
    - ・補助発問「長谷川先生や望月さんと『まねっこ活動』をした人で「すごい」と思ったことがある人はいますか」
    - ・補助発問「どこからそのように思ったのですか」
    - ・補助発問「何からそのように思ったのですか」
- ※「すごい」という視点でとらえている発言を、『まねっこボード』に書いていく。

#### このようになり (C3-②)

- 「すごいこと」という視点で学校で働く人をとらえる。
    - 〈長谷川先生〉
    - ・長谷川先生は、いつも忙しいのに私たちに優しくしてくれてすごいです。
    - 〈大野さん〉
    - ・大野さんは、あんなに暑いのに毎日草取りをしていてすごいです。
    - 〈望月さん〉
    - ・望月さんは、こんなに広い学校を一人で守っていてすごいです。
- 『つなぐ力』
- ※\_\_\_\_\_のように、**比較するすべ**を用いて、学校で働く人と自分とを比べて学校で働く人をすごいという視点でとらえているか発言を基に検証する。

#### このように働き掛けると【働き掛け4】

- 学校で働く人から直接褒めてもらったり、手紙を読んで聞かせたりする。
    - ・説明「長谷川先生や大野さんや望月さんのすごいところがたくさん出てきました。長谷川先生と大野さんと望月さんが聞いたらきっと喜ぶと思います。皆さんには内緒にしていますが、今日は皆さんの授業の様子を見てくださった方がいます。登場してもらいましょう」
- ※長谷川先生と大野さんに登場していただく。
- ・説明「長谷川先生と大野さんから皆さんにお話ししたいことがあるそうです。長谷川先生、大野さんよろしくお願ひします」
- 《長谷川先生》
- 「皆さん、一緒にシャボネットの詰め替えや 水の検査をしましたね。健康日誌も一緒に書きました。休み時間にケガをした人の手当を手伝いに来てくれた人もいましたね。私と一緒に楽しそうに仕事をしていて本当にすごいと思いました。具合の悪い友達や怪我をした友達がいたときに、優しくしてあげられる皆さんでいてください」
- 《大野さん》
- 「草取りを一緒にしてくれましたね。皆さんとお話ししながら仕事ができるととても嬉しかったです。私に、挨拶を自分からしてくれる人も増えましたね。すごく嬉しいです。みんなのことが大好きになりました」
- ・説明「望月さんからは手紙を預かっています」
- 「学校の周りと一緒に見回って安全かどうか調べましたね。私は、皆さんが安全に楽しい学校生活を送れるようにいつも思っています。私の仕事を少しは知ってもらえて嬉しかったです。学校に来たときや帰るときと一緒にお話ししたり、じゃんけんをしたりしてくれる一年生がいます。なかよくなれて嬉しいです」
- ・発問「手紙に書いてあることを聞いてどのように思いましたか」

#### このようになり (C4)

- 自分がしたことを褒めてくれたことで自信をもち学校で働く人に対して好意を抱く。
- ・ 長谷川先生に言われたように、友達に優しくしたいです。
- ・ ぼくも大野さんのことが大好きです。だって、優しく教えてくれたからです。
- ・ わたしも望月さんとなかよくなれて嬉しそうです。これからも自分から挨拶します。
- ※ のように、学校で働く人に好意を抱いている子どもに次のように働き掛ける。

#### 検証のための働き掛け

- 自分がかかわった学校で働く人に手紙を書かせる。
- ・ 指示「手紙をもらって嬉しいと思っている人がたくさんいますね。皆さんも手紙を書いてみませんか。きっと喜ぶと思います。『まねっこ活動』をした人に手紙を書いてみましょう」

#### このようになる (C4-②)

- 『まねっこ活動』を通して気付いた学校で働く人の「すごさ」や学校で働く人からの手紙の言葉などから、「自分にできることをしたい」「これからもかかわりたい」という思いや願いをもつ。
- ・ 長谷川先生優しくしてくれてありがとうございます。私がケガをしたときも優しくしてくれて嬉しかったです。友達にも優しくします。
- ・ 大野さん、いつも草取りをしてくれてありがとうございます。ぼくは、大野さんが草取りをしていてくれるから毎日楽しく遊ぶことができます。また一緒にお仕事したいです。
- ・ 望月さん、朝優しく挨拶してくれて嬉しそうです。毎日やっています。すごいですね。今度はぼくから挨拶します。学校を守ってくれてありがとうございます。

#### 『学びをつなぐ力』を自覚させるための働き掛け

- 『学びをつなぐ力』を自覚させるために授業後、考え方のよさをフィードバックする。発問「〇〇さんが～と言いました。どのようなめがねを使っているのでしょうか」
- ※なお、この働き掛けは働き掛け3-②で発揮される『学びをつなぐ力』を自覚させるために行う。しかし、比較や分類の思考は他の働き掛けの場面でも発揮される。それらも即時フィードバックで自覚させる。

#### このようになる (Cn)

- 自分の考え方を自覚する。
- ・ 比べるめがねを使っています。大野さんと一緒に同じお仕事をしたら、すごいですって分かりました。

## 7 検証

### (1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、「中核的な学習内容」を創り出すことができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」を発揮することができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」を自覚することができたか。

### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け3-②を受けて、あははのように学校で働く人に対する気付きの質を高めているか発言を基に検証する。
- ② 働き掛け3-②を受けて、あはあのように、比較するすべを用いて、学校で働く人がしていることや気持ちと自分とを比べて学校で働く人をすごいという視点でとらえているか発言を基に検証する。

※低学年の子どもの実態を考えて、「何」と「何」とを比べているのか具体的な表現で見取るのは難しい。よって、あはあのような発言があればつないでいると見なす。

- ③ 「学びをつなぐ力」を自覚することができたかどうかを、『〇〇めがね』の振り返りの発言を基に検証する。

※検証のための働き掛けを受けて、目指す姿にある「あこがれをもつ」子どもを次のように規定する。Cnのあこがれのような記述である。なお、上記の検証項目には関係しない。

- ① 学校で働く人のすごさに気付き、自分にできることをしようとする姿。  
例：長谷川先生は、忙しいけどいつも笑顔でお仕事をしていてすごい。ぼくも勉強を頑張ろう。  
例：望月さんは、毎朝校門に立って僕たちに挨拶してくれる。これからは自分から挨拶しよう。
- ② 学校で働く人に好意をもち、これからもかかわりたいという思いや願いをもつ姿。  
例：〇〇さんと一緒に～したことがすごく楽しかった。これからも〇〇さんと一緒に仕事をしたい。